

あじえんだ 113

第12号



(魅力再発見事業応募写真より:「湧水の集まった河川/忍野村」)

目次

◆テーマ随想「各地における川づくり」	2
・小出川に親しむ会の活動	
・鶴見川流域ネットワーク活動報告	
・The East Asian Seas Congress (東アジア海洋会議) 2003に参加して	
◆環境関係情報 「マイアジェンダ制度」が開始	5
◆流域の活動団体紹介 北都留森林組合	6
◆シリーズ 生きものたちの語る相模川8「ヨシvsツルヨシ」浜口哲一	7
◆流域協議会の2003年度事業	8
◆事業報告	10
・流域シンポジウム(2003.11.8開催)	
・第18、19回ツアー&ウォッチング	12
・流域の魅力再発見事業	14
◆流域紀行 「釜淵の乙姫さま」道志伝説	15
事業PR・流域情報・おしらせ	16

● 小出川に親しむ会の活動 ● ● ●

小出川に親しむ会代表 丹沢久子

小出川は、藤沢市谷戸を源流に茅ヶ崎市の西側を流れ、相模川の河口近くで相模湾に注いでいます。茅ヶ崎市に残された貴重な緑の空間、水辺環境です。

16年前、川に沿って新湘南国道が開通し、宅地開発も進み、流域の景観が急激に変わりつつありました。またコンクリートによる護岸工事が進められ、そんな状況変化を目のあたりにして、「事態の進行にまかせておいてよいのだろうか」「この川の自然環境を子供達の世代に少しでも豊かに残してあげたい」と思い、『小出川に親しむ会』が発足しました。1987年のことです。

会は、毎月1回の定例会を中心に、小出川周辺で様々な活動（野鳥観察会、植物観察会、水質・大気汚染測定、樹木の下草刈り、川掃除、川辺コンサート、野草摘み・試食会、自然農法見学会など）を楽しみながら自然に学ぶ機会として行ってまいりました。

その中から主なものを5つ程紹介させていただきます。①多自然型川づくり：河口近くの護岸は両面コンクリートで作られており、会は発足以来、毎年行政と話し合いを続け「多自然型工法」の採用を提案してきました。結果、1996年「多自然型川づくり」の川に位置づけられその工法で中流域の護岸工事が行われました。今潤いのある緑の水辺空間に育っています。②植樹：8年前生き物の憩いの場づくりをめざし、約120名が参加して地域の植生にあった苗木約600本を植樹、その後年2回の下草刈りを続けています。今では大きく茂り、人にも鳥たちにも潤いを与えてくれます。③環境測定：会の活動の原点ともいえ、パックテストによる水質測定、天谷式カプセルを使っての大気汚染測定を年2回、16年以上続けています。④川辺のコンサート：お年寄りから子供まで参加を得て、開催しています。すっかり夏の恒例イベントに定着しました。⑤小中学校の課外授

業への協力：例えば野鳥観察では、土手を1時間ほど散策すると20種類位の野鳥を見ることができます。回を重ねる度に、子供達の自然への関心が深まっていくようです。



みんなで楽しい田植えです。

2002年6月、これらの活動内容に、小出川の生い立ちや現況、会の歩み、川の絵図等を盛り込み15年誌『小出川』を1000部発行しました。本冊子は子供達への環境教育にも役立てられています。

今までの地道な活動が認められて数年前から環境省より「水環境賞」、県教育文化研究所より「ふれあい奨励賞」、ソロプチミスト日本財団より「環境貢献賞」を受賞し、また2003年6月には日本河川協会より「日本水大賞」奨励賞を受賞いたしました。この受賞を記念し今年1月、小出川の公募写真展と講演会（テーマ「川のある風景〈ラウンドスケープ〉から街づくりを考える」講師：麻生恵先生・東京農業大学）を開催し、大成功でした。

このように活動を続けてこられたのも、地域の多くの方々の支えと、会員皆さんの和と熱意があったからだと思います。これからも川に親しみ、川を考え、人と自然が共存できる環境づくりを目指して地道に活動を続け、次世代の子供達に少しでも多くの自然を残し伝えていく事ができたらと願っています。

● 『鶴見川流域ネットワーク』は、流域のランドスケープに沿った市民の草の根の運動です。

『鶴見川流域ネットワーク』は、8つの流域で活動する数多くの団体の連携と協力によって、鶴見川の水環境の保全活動を中心にしながら環境教育、まちづくりに幅広く取り組んでいる。

このたび活動を紹介するために、「よこはま川のフォーラム」の中で開催された流域見学会(2003.9.20)に参加し、取材した。

東横線の綱島駅に9:00集合、約25名が参加。岸由二さん(鶴見川流域ネットワーク代表)が案内役だ。全行程は8~9km。大綱橋にすぐたどり着き、足元の川の左岸にバリケン島が見える。南米の鳥バリケンが住み着いたので、市民の愛着もあり島をそのままそっとしているとのこと。川にはいろいろな物語ありで、2003年8月25日にはタマちゃんが寝そべった橋のたもとでもある。



今回は、早瀬川を回り込み、太尾大曾根陶板広場、太尾公園と順次眺めながら、横浜アリーナ、そして横浜労災病院の後側を回り込んで、巨大な鶴見川多目的遊水地“新横浜ゆめオアシス”へ到着。ともかく巨大。

そして鶴見川流域センターに到着する。オープンは2003年9月23日であるから、オープン前に施設を見学したことになる。鶴見川流域ウォークマップで終始分かりやすく説明を受けたことが印象に残った。

2003年11月8日、桂川・相模川流域協議会主催の流域シンポジウム2003において、岸由二さんは、鶴見川流域と主宰の会の活動を次のように、紹介された。人によって川との係わりは、とても個人的でさまざまだと感じた。以下、その一端を紹介する。

「12年ほど前から、鶴見川流域ネットワークというネットワーク活動が進んでいます。多分、相模川のネットワーク活動とちょっと違うのは、完璧にグラスルーツ(草の根)で組み上げたネットワークなので、行政が主導して、行政と連携して立ち上がったネットワークではないことです。三浦半島の小網代とか多摩・三浦丘陵という広がり、いるか丘陵ネットワークというものもやっております。行政区画ではなくランドスケープ、地べたのでこぼこの構造に沿った都市の再生というのを、いわばライフワークにしております。

鶴見川は、長さ42.5キロで桂川・相模川の3分の1位、流域も桂川・相模川の6分の1位の小さな流域ですが、下流部には都市施設が集中していて、1級河川、国土交通省直轄の川です。流域の形が、斜め左後ろから見た動物のバクの形のようなです。地域の文化の中に大地の地図をアニミスティックに組み込むのが私の古くからの思想でもあって、いろんなものを動物にします。…バイオリージョナリズムを自分の課題として考えています。生態文化地域主義、地域生態文化論という言葉の日頃からは使っています。…

次に、どういうことをやっているかということ、日常的には、流域の各地、源流の町田から川崎、横浜に至るまであちこちで持ち場活動をやる団体があり、緑地や水辺で定期活動をやっています。だいたい20カ所ほど、もうちょっと多いかもしれません。市民公開型で、例えば子供のお世話、雑木林の管理、水循環再生を小規模でやる、川辺で生き物調査など行っています。…」

平均すれば毎週どこかで何かの活動を一箇所以上で行っているのので、応募して参加することをお

勧めします。

(報告 編集委員 牧島信一)

● The East Asian Seas Congress (東アジア海洋会議) 2003 に参加して

神奈川県環境農政部大気水質課 千葉礼子

2003年12月6日(土)から13日(土)まで、標記の会議に参加しました。今回、私がこの会議に参加したのは、行政の立場から見た桂川・相模川流域協議会についての発表をするためです。

英文での流域協議会の活動は、その標記が難しく難題に次ぐ難題の連続でした。しかし、流域協議会のすばらしいしくみや活動を紹介したり、インターナショナルなカウンシルとして売り出すには絶好のチャンスだと思いました。また、これがきっかけで何かが起こるのではないかと、未来の流域協議会の何かにつながっていくのではないかと、相模湾沖に飛び込む思いで、出張のお話をお受けしました。

会議は、マレーシアのプトラジャヤという場所で行なわれました。プトラジャヤは、大きな池の周りに人工的に建てられた新行政都市であり、首都のクアラルンプールからは、車で40分くらいのところにあります。会議の会場であるホテルの周りには、お店一軒あるわけではなく、会議に集中(?)できるすばらしい環境でした。

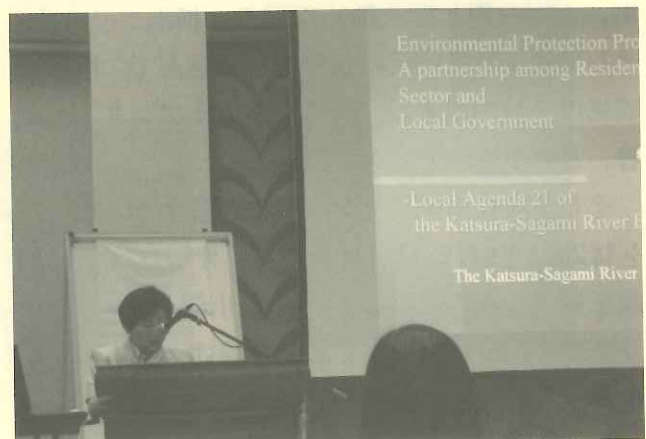
会議は、マレーシア科学技術環境大臣が出席するオープニングセレモニーから始まり、学識経験者などが会議の方向性を導くためのテーマA(4つのワークショップ-海洋輸送/陸地汚染/漁業と養殖/生物多様性-)に分かれて行なわれ、私は水生生物調査などの仕事を持っていることから、生物多様性のワークショップに出席しました。

テーマBについても4つのワークショップ(ローカル管理と連携/統合沿岸管理の実施・技術及び

専門知識/財源、投資及び共同責任/国家的海岸・海洋政策及び地方の協力的取り決め)に分かれて行われました。

流域協議会についての発表は、テーマBで、12月10日(水)の朝9時頃に行いました。パワーポイントの画面を動かしながら英語で説明するのは、思っていたより難しく、冷や汗をかきましたが、あっという間に15分が過ぎました。議長が「Thank you, Ms. Chiba!」と声をかけてくれて無事終了し、やったあ!という充実感を味わうことができました。発表が終わったばかりの時にはあまり反応がなかったので、発表した意味があったのか不安になりましたが、その後のランチの時などいろいろな人から声をかけられ、「今度日本に行くから案内してくれないか。」と言われた時には、少しは反応があってよかったなあとしみじみ感じました。

最初に思ったとおり、このことによって流域協議会に何かChanceが訪れ、より一層活発な行動につながっていくことを心より望んでいます。

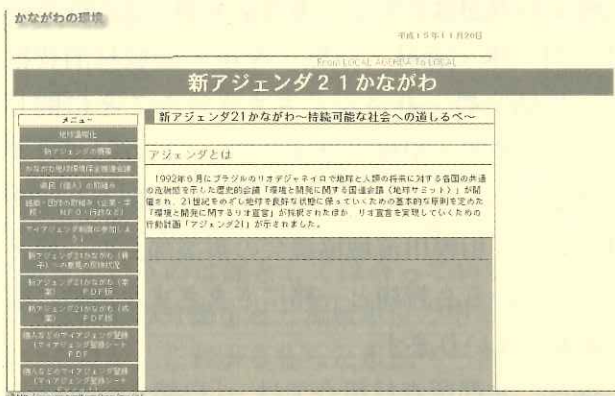


● 「マイアジェンダ制度」が開始。「かながわECOネットワーク」で、環境配慮活動を自主的に登録・公開が可能です。

《「新アジェンダ21かながわ」について》

10月24日、かながわ地球環境保全推進会議の総会で、「新アジェンダ21かながわ」が採択されました。市民部会（2003年9月6日）において、案の段階で出前説明が行われ、また質疑応答を行い、そして追加提案等をいたしました。「新アジェンダ21かながわ」は、下記のサイトからダウンロードすることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/agenda/la21k.html>



その概要は、神奈川県における30年後のあるべき姿を表した長期ビジョンを提示しています。また、ビジョン実現のため、今後の10年間のアクション（行動計画）を11分野21目標に整理し、県民、企業、NPO等、行政などの各行動主体が取り組む具体的な行動メニューを提案しています。そして、地球温暖化対策に重点的に取り組むため、二酸化炭素（CO2）排出量の数値目標を設定しています。

《アジェンダ制度がスタートしました》

環境配慮に向けた取り組みの輪を広げるために、「マイアジェンダ制度」を設けています。「マイアジェンダ」とは、組織・団体（企業・NPO等・行政・学校等）や個人などが、環境配慮に向けて自主的に取り組む内容を公表し、登録するものです。

《「かながわECOネットワーク」から登録》

登録の手順は以下のとおりです。

①「かながわの環境」を開きます。アドレスは、<http://eco.pref.kanagawa.jp> です。



②トピックスの「かながわECOネットワーク」をクリックします。

③「かながわECOネットワーク」のページの「登録・修正」をクリックします。

④「かながわECOネットワーク」の登録画面になりますので、新規登録の場合は、「新規登録」をクリックします。

個人や家族の登録は「新アジェンダ21かながわ」（最初に掲載のURL）からできます。また、FAX・郵送でも可能となっています。

今後は、団体・NPO等や行政が、ゴミの分別、森林の整備、環境家計簿の活用を呼びかけ、グループのみんなで実施するときには、環境配慮活動をしていますので、自主的に登録し、活動の公開が期待されます。

（取材報告 編集委員 牧島信一）

● 「北都留森林組合の紹介」 ● ● ●

北都留森林組合

中田 無 双

北都留森林組合は、1984年7月、山梨県北都留郡の小菅村、丹波山村、上野原町の3森林組合を合併して設立されました。管内森林面積は約25000㍏、うち16000㍏(64%)を民有林、8000㍏(32%)を都立林が占める組合員2000名、職員総勢50名の組織です。(そのうちIターンで山仕事をしている者は20名程)

現在の森林・林業問題は、「持続可能な森林管理・経営(循環型社会づくり)」ができない!ことにあります。外国からの安い木材がどんどん輸入され国産材が利用されず林業経営収支が悪化し続けております。そして森林への投資意欲と管理水準の低下を招き、林業の担い手不足が森林の公益的機能の低下を招いております。そんな中で、当組合では若手の職員を早期から登用して『森づくり』に重点を置きながら仕事をしてきました。

平成15年10月21日に全国森林計画が閣議決定されましたが、これは平成15年4月から平成31年3月の15年間にわたる国の森林整備計画です。内容は、全国44の広域流域について流域ごとに、森林整備及び保全の目標、伐採立木材積、造林面積及び林道開設量を定め、木材等の林産物の供給、水源涵養、山地災害防止、保健・文化・教育的な利用の場の提供、良好な生活環境の保全、地球温暖化の防止、生物多様性の保全等々森林の持つ多面的機能への期待や国民の高度化・多様化してきている要請などに応じていくことを掲げてあります。

相模川もその全国44広域流域のうちのひとつとして、例えば「育成複層林を現況の3倍15000㍏へ増やす」とか、「林道の整備率を55%から72%へ増やす」などさまざまな目標が設定されています。



難しい問題はたくさんありますが、大切なことは、川・水・森林・空気・環境・流域材消費拡大・生活全般・経済などさまざまなことに関して、この桂川・相模川流域がひとつになって考え協働していくことだと思います。北都留森林組合は、桂川・相模川流域協議会の事業部会の一員としてこれからも皆様と一緒にさまざまな活動に取り組んでまいります。

現在、北都留森林組合では、「自然」、「森林」、「林業」、「水源」、「環境」等に関心をお持ちの方を対象として『森林・林業体験教室』を開催しております。ひとりでも多くの方に森に入って頂きたいとさまざまなコースをご用意しております。各種団体様向け体験教室も随時開催しております。

私ども組合職員スタッフといっしょに森へ入り自然と話をしてみませんか。詳しくはHPをご覧ください。頂くか直接下記までお問い合わせ下さい。

【お問合せ先】北都留森林組合

電話：0554-62-3330

メールアドレス: kitaturu@pluto.plala.or.jp

ホームページ

<http://kitaturu.hp.infoseek.co.jp>

ヨシ VS ツルヨシ

文・イラスト 浜口 哲一

ヨシ：『春は名をみの風の寒さや・・♪』

ツルヨシ：なんか気分がよさそうだね。

ヨシ：春が近いからね。この早春賦の歌（作詞：吉丸一昌）には、我々ヨシのことが出てくるから、つい口ずさむんだ。

ツルヨシ：君のことなんか出てきたっけ？

ヨシ：同族だということに知らないとは嘆かわしい、二番ですよ、二番。『氷解け去り葦は角ぐむ』ってね。

ツルヨシ：『角ぐむ』ってあまり聞かない言葉だね。涙ぐむなら分かるけど。

ヨシ：我々ヨシは多年草だから、地上の茎は枯れても、地下茎は生きていて、春に伸びる芽がちゃんと準備されている。早春には、その芽がちょうど牛の角のような形になって、地面や水面ぎりぎりの位置で伸び出すタイミングをはかっている。そのようすを『角ぐむ』という素敵な言葉で表現するなんて泣かせるじゃないか。

ツルヨシ：なるほどそういうことか。ところで、このあたりは、僕と君が隣り合って生えているけど、こういうことって珍しいよね。

ヨシ：そういえば、そうだね。我々の本拠地は川の下流、それも川岸の水際に生えている。少し水につかるあたりが特に気に入りだ。

ツルヨシ：反対に、ぼくらの領分は、川の上流。溪流の岸なんかで、水に流されそうになりながら生えているんだ。それと中流あたりに来ると、石がごろごろしている場所が好きだね。

ヨシ：好きというよりは、川岸で我々と競争しても勝てないから、我々が苦手な乾いた場所を選んでるんじゃないのかい。

ツルヨシ：まあ、確かに君たちの方が背が高くなるからね、無用な競争はしないつもりだよ。たまにお隣さんくらいになるのは許してほしいけど。

ヨシ：我々も君たちを押しつけようなんて毛頭思っていないよ。棲み分けというのかな、それぞれが違う場所を選んで共存していく、それが生きものこの世界の鉄則じゃないか。

ツルヨシ：そういえば、オギ君やススキ君も元気なのかな。

ヨシ：それぞれに頑張っているみたいだよ。オギ君は、中流から下流の少し湿った河原に一面の草原を作っている。ススキ君はもっと乾いた土手のあたりが地盤だ。結局、川の景色を決めているのは我々イネ科植物なんだよね。

ツルヨシ：僕にはいばる趣味はないけど、確かにそれは言ってるね。しかし、人間達は、オギもススキもヨシもツルヨシもみんなごちゃまぜに見ているから困っちゃうよね。

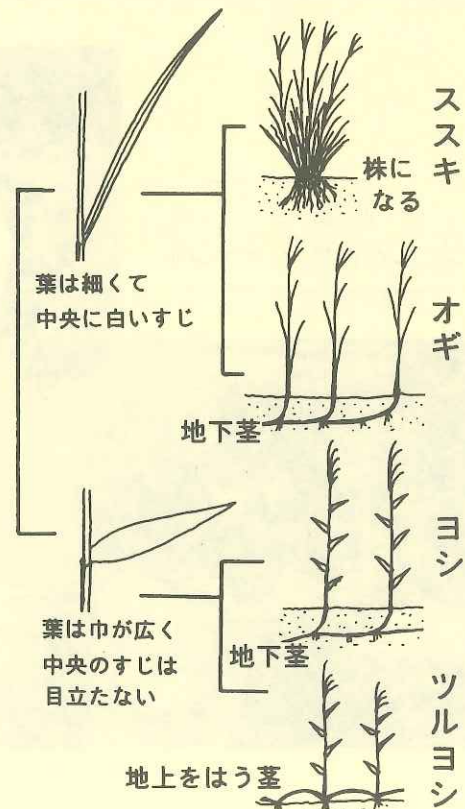
ヨシ：同感、同感。我々の違いを見分けることで、川其自然条件をきめ細かくつかむことができるのね。

● 〈出席者のプロフィール〉 ●

ヨシ：イネ科の大型植物。長い地下茎を持つ。

ツルヨシ：イネ科。ヨシに似るがやや小型で茎が地上をはう。

(平塚市博物館 学芸員)



流域協議会の



道志の水源林の話も聞けたし、そば打ちがとても楽しかったです!!

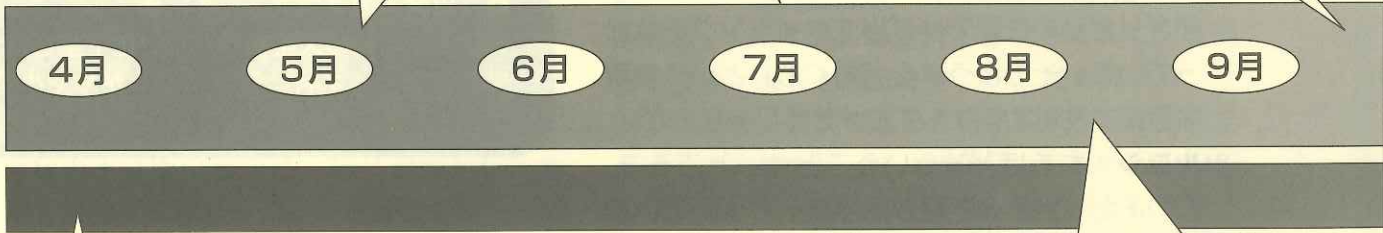
7月25日(金)
上下流交流事業
上流事業(山梨県)
山梨県道志村(道志川にて)



5月24日(土)
2003年度総会
ソレイユさがみにて



9月23日(火・祝)
ツアー&ウォッチング
寒川~戸沢橋
(神奈川県)



通年
クリーンキャンペーン



8月25日(月)
上下流交流事業
下流事業(神奈川県)
相模原市(相模川にて)

暑い日でした。川にはいり水生生物観察して、カレーライスづくりに汗を流しました。



ゴミも拾ったし、水生生物も観察したよ!



2003年度事業

今年は、このような一年でした。

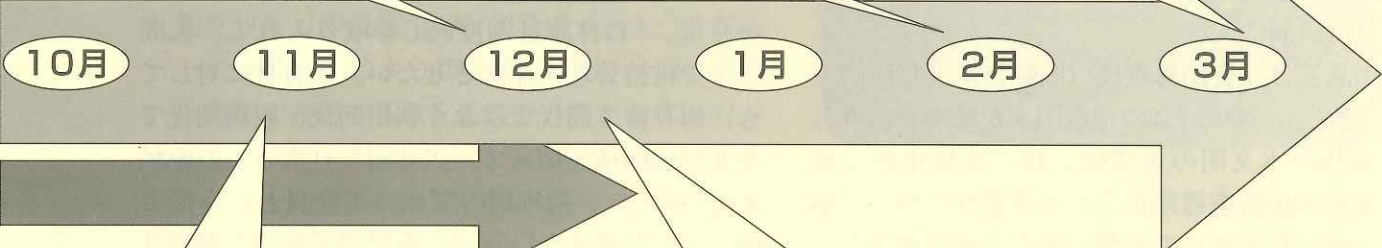


11月30日 (日)
ツアー&ウォッチング
葛野川揚水発電所・
葛野川
(山梨県)

2月15日 (日)
ツアー&ウォッチング
相模湖町・
小原本陣の森他
(神奈川県)

3月27日 (土)
ツアー&ウォッチング
藤野町・篠原の里
(神奈川県)

2004年度新たな
流域協議会の事業へ



10月

11月

12月

1月

2月

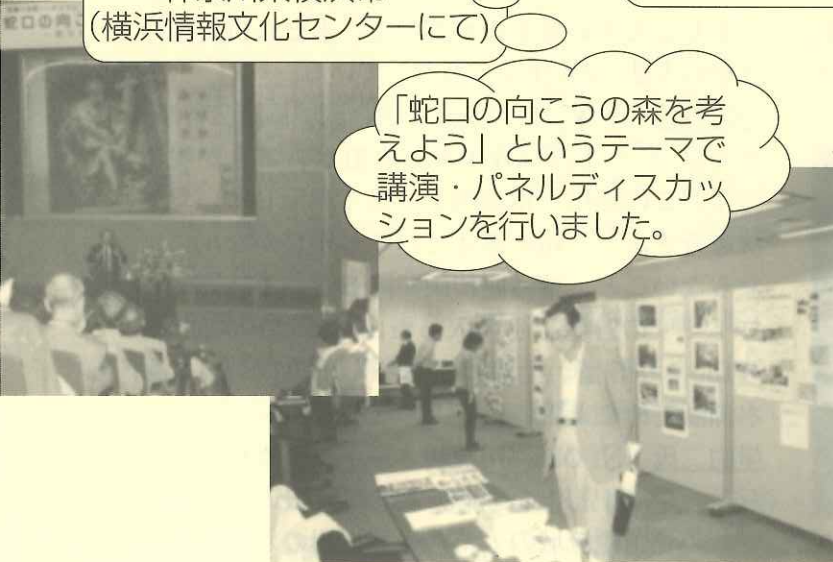
3月

11月8日 (土)
流域シンポジウム
神奈川県横浜市
(横浜情報文化センターにて)

12月末 (応募締切)
流域の魅力再発見事業

「蛇口の向こうの森を考
えよう」というテーマで
講演・パネルディスカッ
ションを行いました。

昨年に引き続き、流域
の魅力ある場所を募集
しました。応募結果
は…。



◇ 流域シンポジウム ◇

蛇口の向こうの森を考えよう

～飲み水はどこからどこへ～

2003年11月8日(土)、横浜市で開催。

桂川・相模川流域シンポジウムは、2003年11月8日(土)横浜情報文化センター・情文ホールで、124名が参加して開催された。テーマは、『蛇口の向こうの森を考えよう～飲み水はどこからどこへ～』で、流域協議会にとっては初めての横浜市内での開催である。

今回は「水(飲み水)」に注目し、上流の水源地域から恩恵に浴する都市地域に至る流域全体からの視点で考えることができた。総合司会は牧島(流域シンポジウム実行委員長)で進行。主催者代表して河西代表幹事から開会の挨拶。ついで、神奈川県・山梨県知事からのメッセージ披露の後、基調講演に入る。

基調講演は、安田喜憲氏(国際日本文化研究センター教授)演題は『森の環境国家が地球を救う』。日本独特の水文明の重要性、特に流域単位で環境・文化・生活を考えることの重要性について納得性の高い話を聞くことができた。環境考古学における「年縞」分析によって年単位で歴史上の出来事が再現することできるようになったこと。また都市が森林を破壊していく状況、大量消費に浸った生活の課題の深刻さも持ち物調査で日本人が群を抜いて高いこと等々も紹介され、また龍の計画(ドラゴン・プロジェクト)の提案もあり、参加者の感銘を受けながら、大きな拍手で終えた。



午後の始まりはアトラクションで、ミュージズ(横浜国立大学教育学部附属養護学校卒業生)によるマリンバ演奏。川に関係する曲もあり、その

熱心な演奏に参加者一同感激。よい交流の機会となった。

パネルディスカッションでは、コーディネーターとして糸長浩司氏(日本大学生物資源科学部助教授)。各パネリストの話の要点を紹介する。

上甲吉史氏(横浜市水道局管財部水源管理所長)からは、「横浜水道は明治20年に近代水道の発祥としてスタート。平成16年から道志村の民有林3分の2の所を、市民の方を募集して森林ボランティアで実施。当初18年度までに300人を予定のところ、すでに690人の応募があってうれしい状況。…」寺沢恵治氏(山梨県大月林務環境部長)からは、「森林認証制度FSCを取り入れて、人間の手で維持管理を徹底させたい。民有林に対しても、切り捨て間伐ではなく利用間伐・収穫間伐でかなり大面積を切って、広葉樹なり別のものを植えている。…相模川の圏域の圏産材という形で使っていただきたい…」中村道子氏(上野原リサイクルの会、流域協議会幹事)からは「上野原町を例に自治体の現状と、水をきれいにするための方策を報告。山、山、山の中の集落が沢山ありそこを一つに結んで排水処理をする計画がある。しかしとてもお金がかかるので、あと合併処理浄化槽の方法の2本建てで努力している。…」

小宮昇氏(平塚の自然を守る会、流域協議会幹事)からは「…上流は桂川なり水道水、これが現実です。この桂川・相模川を、賢く利用していく方法を皆さんと一緒に考えていくしか豊かな川にはならないこと。草っ原に雨が降ると、1時間あたり1ミリの貯留。手の入った山林では100ミリから150ミリ貯留。上流はもちろん下流においても水源涵養林を大切にしていきたい。…」

岸由二氏(NPO鶴見川流域ネットワーク代表)からは「…鶴見川は源流が東京都町田市内にあって、鶴見川源流域の人たちは利根川の水を飲んでいて相模川の恩恵には預かっていない。逆に相模川の水を川崎市に引くために源流域に巨大なトン

◇ 流域シンポジウム ◇

ネルが作られ源流の水が切られていて、鶴見川の水がなくなることもあるので、複雑な思いである。…流域という枠組みで環境の回復を図るために、どういう広がりがあってどんな可能性があるのかと。そういう話を提供するのが私の役目と思っている。…」。



さらに糸長浩司氏からは「…神奈川県というのは森を使った経済を起こしていない。流域の管理の観点からも、先ほど岸先生の提案のように、保全するために経済をどう回すかという視点での本格的な取り組みが必須。それに対し有効な税金を使うというのは筋としては合っている。…新しい意味での労働をどう流域単位の中で生み出していくのか。これからもっと市民ベースで新しい業態や労働形態を生み出していくか、そこら辺がヨーロッパは非常にうまい。…そういう意味で流域を通してもっと足腰の強い新しい組織体、そのための母体をもっと市民サイドから、あるいは行政や企業とのネットワークを組みながらやっていくことが大切。安田先生のお言葉では、植物の文明と動物の文明の両方が共生した森と水の文明を日本がしっかりとつくり、それを相模川流域から発信していただき、首都が変われば京都も変わり、日本も変わり、アジアも変わり、世界も変わるというストーリーを是非スタートしてやっていただけるとありがたい。…」。一部の抜粋ですが、このようにパネリストからの報告と提案が行われた。なお、今回の流域シンポジウムの詳細は、2003年度活動報告書で紹介予定。また続いてホームページに掲載予定である。

最後に、流域シンポジウムのアピール文読み上げ、主催者代表して桑垣代表幹事から閉会の挨拶があり、今後の横浜における地域協議会の立ち上げにエールを送りつつ終わることができた。

また展示コーナーでは、流域マップの展示紹介、流域の間伐材で製作された作品等の展示、森林組合から森の恵みとしてコースターの無料提供、また20余の団体から活動紹介が行われた。

(報告 牧島信一)

参加者の感想

今回テーマに惹かれ軽い気持ちで参加した。安田先生の講演では、ヨーロッパ文明・キリスト教の発展が肉食＝牧畜の拡大、森林の消滅、ひいては水の涵養が損なわれたとのご説明に共感をおぼえた。また日常飲んでいる水が他県にもつながりをもち、パネラーの方がそれぞれの立場から飲み水の問題を真剣に話されたことを有り難く思った。県民として生活に不可欠の水について、認識が甘く反省させられ、もっと大切に使用することや水環境保全に務めることが必要とつくづく感じた。

ミュージックのマリンバ演奏には、奏者の一生懸命の気持ちが伝わって感動した。終わりにパネル展示も飾らない素朴さが受けたのではないのでしょうか。(神奈川県参加者)

僕は今回、上流域の大月市よりパネル展示協力という形で参加しました。参加して「流域の環境保全活動を促進するのにシンポジウムは役だっているな。」と実感しました。

展示では、多くの方が僕の手がけた間伐材使用の時計・ランプを感心した様子で見てくださいました。「この時計いいねえ。売ってほしいわあ！」その時の僕のうれしさといったら……。上流域だけと思っていた自分の活動が、何かしらの形で下流域の人々にも理解され認められる。このことは未来の活動を促進させる大きな原動力となっています。

今回は同市より8人の学生が参加しました。シンポジウムで得た感動をもとに今後も流域で森づくり活動に励みたいと思います。次回のシンポジウムで出逢う新たな感動に期待をふくらませながら。(山梨県参加者)

今回シンポジウムに参加して、以前日本海岸が重油まみれになった頃、藤野町で流域の各方面の

◇ 流域シンポジウム ◇

人々と、ゴミ・森・水などのテーマに分かれ夜がふけるまで話し合ったことを思い出した。クレソン農家の私は“水”の問題に関心があり、水の部会に参加した。

勉強会を重ねていくうちに、川の力は森が持っていることを実感し認識するようになった。皆の思いも同じで、流域の各支部で森づくりがさかんになってきた。大気が汚れ雨も汚れこの循環する気候システムが狂いはじめているが、もとに戻して

ゆく出発点は森にあるように思う。

クレソン栽培で実感することだが、根が張ってぎっしりふえた元気なクレソン田の水はとてもきれいに澄みきっている。森も同じことで、木がふえて丈夫な根をのばせば大地も水も自然に浄化されていくと思う。—みんな楽しく森へ行こう。子供たちをつれて行こう。— 森でそのメカニズムを感じた子供達はきっと、川にゴミをすてない。(山梨県参加者)

◇ 第18回流域ツアー&ウォッチング ◇

カラー植生図を道案内にして

寒川（平塚スポーツ広場）～戸沢橋

実施日:2003年8月23日（祝） 天気晴朗なれども風強し

集 合:平塚スポーツ広場 10:30

解 散:戸沢橋 13:15 参加者:13名

澄み切った空には刷毛ではいたような秋の雲が浮かび、富士山から箱根、丹沢の山々が指呼の間に望める好天気。ただし台風の名残で風が強く、帽子が飛ばされないようにするのに苦労した。「相模川キャンペーンシンポジウム」の岡田一慶さんと氏家雅仁さんに全面的にお世話になる。

平塚スポーツ広場に集まり、岡田さんからカラー植生図を受け取り、右岸を上流の方に向かって出発。しかし、右岸の河川敷は戸沢橋までのほとんどの区間が市民のスポーツのためのグラウンドになっていて、芝地または裸地で、見ても意味がないので、運動場と流れの間の、釣り人がつけたと思われる踏み跡をたどることとする。

川の流れに近い湿った場所にはヨシが、反対側の乾燥した冠水草原にはオギが生い茂り、それにクズ、カナムグラなどの河辺荒地生草本がからみついている。土留め用に植えたシナダレスズメガヤが逸出して地表を覆いつくし、他の植物を寄せ付けない場所が何箇所もあったのが、気にかかった。植生図でセイタカアワダチソウ群落となっており、かつては一面黄色だったという場所に、花はあまり見られず、不思議な感じがしたが、この

草は増え過ぎると自分で数を調整する機能を持っているらしい。センダングサもほとんど見かけなかった。

高木はほとんどなく、僅かに平塚市と厚木市の境界付近のグラウンドの途切れたあたりにエノキの群落があったくらい。しかし、ところどころ川岸の僅かな土にヤナギが根を下ろしており、将来大きく成長することが期待される。



このように、植物相は貧弱であったが、水辺には多勢の釣り人が竿をたれていたし、ところどころ伏流水が湧き出て水が澄んでいるところには、何種類かの小魚を見ることができた。岡田さんの

◇ 第18回流域ツアー&ウォッチング ◇

説明によれば、戸沢橋の下あたりの砂利の多い場所はアユの産卵場になっているとのこと。水はまだまだ綺麗なようである。

川辺の冠水した跡がいたるところ水溜りとなって残っており、ザリガニやオタマジャクシがみられたところもあった。場所は内緒だが、ゲンゴロウが住み着いているところもあるらしい。鳥は意外と少なく、目立ったものとしては白鷺（多分コサギ）が飛んでいたぐらい。

途中川岸で弁当を食べたものの、予定より早く1時過ぎに戸沢橋手前の戸田の渡しの記念碑に到

着。この先はグラウンドになっていて面白くないので、ここで解散することとした。今日歩いた平塚市・厚木市側の、自然の植生はあまり残っていなかったが、寒川町・海老名市側の川原にはまだかなりの自然が残っているように見受けられた。しかし、ここにも道路や橋の計画があるとのこと。乏しくなった自然をぜひ残したいものである。

また、今日歩いた範囲（とくに平塚市側）にはゴミがほとんど落ちていなかった。地元のかたがたの清掃活動のおかげと、頭が下がった。

（林 久男 : 記）

◇ 第19回流域ツアー&ウォッチング ◇

かすのがわ

葛野川揚水発電所の見学と

電力の水利用に関する勉強会参加

実施日:2003年11月30日（日）

集 合:JR中央線猿橋駅、東京電力「葛野川PR館」10:10

解 散:東京電力「葛野川PR館」 15:30 参加者18名

今回は、世話人に河西さん、案内役に東京電力（株）山梨支店大月支社の大川さんと渡辺さんをお願いして葛野川発電所を見学し、続いて桂川・東部地域協議会主催「桂川における電力の水利用の現状について」の環境勉強会に参加しました。勉強会は、18名の参加者に加えて、桂川・東部地域協議会のメンバーも加わり会場はぎっしり。

朝、今日は雨男・晴れ男？と思いながら集合場所（猿橋駅）へ。そんな気まぐれなお天気でした。東京電力（株）さんの小型バスで、猿橋駅を10時出発。総勢18名のクルーです。

相模川上流部桂川の支流、葛野川小金沢溪谷沿いにある素晴らしい天然色の錦を堪能しながら甲斐路を（現在建設中の多目的ダム「深城ダム」を横目に）上流へと進むと、すぐ下部ダムの葛野川ダムに到着。

ダムサイドで説明をきき、いよいよ地底探検ならぬ地下発電所へ。長い長いトンネルで地下深く進むこと約10分、到着。

地底には大きな空間に現在2基（最終4基、山梨県全体を賄う発電量）の発電機が稼働していま

した。水は上部の上日川ダムから世界最大級の有効落差714mを有し発電所、そして下部の葛野川ダムへ。夜間電力を利用し今度は葛野川ダム→発電所→上日川ダムへの揚水式水力発電所であります。

案内と説明を受けながら質疑応答もありましたが、時間切れで、地底を後にバスにて一路、東京電力の「葛野川PR館」へ帰還しました。（ここまで約2時間30分）

「葛野川PR館」は揚水式水力発電の仕組みと役割や電力について、楽しくわかりやすく学べるようになっていました。あちらこちらと余裕をもって見学しました。

昼食後、桂川・東部地域協議会主催の環境勉強会に参加し（総勢30名ほど）、東京電力さん側からの説明と熱心な質疑応答がされました。それぞれ理解を深め有意義なひとときでした。

午後3時、PR館にて解散しました。下流側から参加したメンバーは、無事バスにて帰路につくことができました。

（報告 T&W担当幹事 八木 伸）

◇ 流域魅力再発見事業 ◇

流域の魅力再発見！！



昨年に引き続き、アジェンダを推進するにあたり、大切に保全していきたい流域の魅力的な場所(とっておきの場所)を発掘することを目的として、流域の魅力再発見事業を実施し、皆さんに募集しました。

募集締め切りの12月末日までに多数の応募があり、新たな流域の魅力が発掘されました。

山梨県西桂町

『新発見？相模川に第三の滝』
相模川の本流には2つの滝があることが知られている。都留市の田原ノ滝、忍野村の鐘山の滝である。
ところが、これらのちょうど中間に写真のような滝がある。
これが、滝として認知されているかはわからないが、一見の価値はある。

山梨県山中湖村

『山中湖に写る「逆さ富士と白鳥」』
山中湖の西岸から北岸沿いにかけては、マリモ、ジジミが減少傾向にあります。
一方、白鳥は現在33羽まで増えてきています。



神奈川県綾瀬市

『三地蔵の脇の湧き水』
綾瀬市城山公園下、海に向かって舌状に延びる座間丘陵崖線の南端付近。水が木の根本の祠からわき出ているように見え、最も印象的である。

山梨県忍野村

『忍野村からの富士山と湧水の集まった河川』
忍野八海から流れ出る河川と富士山の風景。富士山に降った雨や雪の一部は忍野八海に湧き水として流れ込む。



山梨県山中湖村

『大洞の水』
山中湖南側の静かな別荘集落の谷筋。バードウォッチャー達に小鳥達の水飲み場として知られている。



山梨県道志村

『道志川の鬼地蔵』
流域協議会の上下流交流会で発見した。移動のために歩いていたら、右手に物の気配がした。
何かと思えば、五体の鬼の顔があった。「コラ！！ゴミを捨てるナ」と睨んでいるようだった。今、この五体を私は『道志川の鬼地蔵』と呼んでいる。



神奈川県海老名市

『土堀の農業排水路とその周辺の田圃』
写真の小川(土堀の排水路)は自然河川ではない。祖先が苦労を重ね、累々と築いてきた相模川用水施設の一部である。



釜淵の乙姫さま ～道志村に伝わる物語～

昔な、道志の釜淵ちゅう所に惣兵衛という爺さんがおった。もう、隠居の身だったがある日、釜淵へ行ってケヤキの枝打ちをしておった。

トトザック バラリと挽き出す音は～さんちよ先から～耳につく～

いい気持ちで木挽き唄を唄っていたが、勢い余って、手斧を淵に落としてしまった。「あれえー。困った事だ。手斧を落としてしもた。どうしよう。」

いろいろ思案していたが、惣兵衛爺さんは、いきなり、禪ひとつの裸になって淵の中へ飛び込んだ。惣兵衛爺さんは、淵の中へ入って、自分の手斧を探し始めた。そして、深い深～い淵の中へどんどんと入って行った。

「あれえー。あんな所に人が居るぞ。」

惣兵衛爺さんの前へきれいな乙姫様と、魚の家来たちが現れた。

「そちの手斧は、私が持っています。けれど、何か面白い話を私に聞かせてください。そうすれば、手斧を返してあげましょう。」

「聞かせてくれ。」…「聞かせてくれ。」…

「聞かせてくれ。」…

惣兵衛爺さんは、手斧を返してくれるのならと、面白～い話をたくさん聞かせてあげた。

「いやあー。随分ともてなしを受けた。ついつい、長居をしてしもた。さぞ、家の者も心配しているだろう。」

「そうですか。では、面白い話を聞かせてくれたので、お礼に機糸管を上げましょう。」

惣兵衛爺さんは、乙姫様からお土産に機で織る時の糸管をもらって家に帰って行った。

惣兵衛爺さんの家では、家族や親戚の者が大勢集まっておった。

「何だか、大勢集まってにぎやかだなあ。」

と言いながら、家の中に入ってみると、何と、自分の法事の最中であつた。

惣兵衛爺さんの姿を見て、お婆さんは、「ヒエー。」

村の者もみんな大さわぎ、坊さんまでも気絶してしもた。

「どうしただ。俺だ。惣兵衛だよ。」

「爺さん。あんた、幽霊じゃないだか。」

「何をつまらん事を言ってんだ。俺あ、たった三日、淵の中へ行って来ただけだというのに。」

「三日だと。何言うだあ。」

「爺さんは、三年前に淵の中に入って死んだ事になってるんだ。」

しかし、爺さんが本当に生きている事がわかると、みんな大喜びで酒盛りが始まった。

村に戻った爺さんは、乙姫様からもらった糸をお婆さんにやり、お婆さんはその糸を横糸に使って機を織ってみた。すると、何日経っても、その糸は少しも減らず、その事は村の人たちの噂となって広がっていった。

と、そこへ村の人が訪ねて来た。婆さんは、惣兵衛爺さんから口止めされていた釜淵の話をしてしもた。

すると、どうだろう。管糸はあっという間に消えてしもた。

糸管が消えると、釜淵の中からは、形がにわとりに似た不思議な鳥がけたたましい音と共に水面に現れ、惣兵衛爺さんの村の方へ飛んで行ったという。

この化け物のような大きな鳥は、湯本の村の家畜をことごとくさらって行ってしまった。

それからは、この村では、にわとりを飼うことをしなくなったという。

(道志村 提供)



桂川・相模川クリーンキャンペーン

流域協議会のクリーンキャンペーンは、『アジエンダ21桂川・相模川』に定められている「散乱ごみ・不法投棄のない地域づくり」と「市民・事業者・行政が連携した取り組み」の実践として行っています。

流域各地域で実践活動している個人・団体の方から実施予定の情報をいただき、その情報を年2回チラシに掲載し配布しています。皆様のお住まいの地域でクリーンキャンペーンが開催される時にはぜひご参加ください。

また、主旨にご賛同いただきクリーン運動を実施している方々で、あらかじめ事務局にご予定をお知らせいただければ、軍手やゴミ袋（国土交通省京浜河川事務所提供）、水質調査キットを送付いたします。各種情報をお知らせください！

流域協議会ホームページにアクセスを！

3月8日アクセス件数が10,000件を超えました。事業に関する情報は、ホームページに掲載しますので、ご覧ください。アドレスは次のとおり。

[http:// www. katura-sagami.gr.jp](http://www.katura-sagami.gr.jp)

流域の話題

ふじかわくちこまち

◎ 富士河口湖町誕生

平成15年11月15日、当流域協議会会員の山梨県河口湖町、勝山村、足和田村の3町村が合併し、富士河口湖町（人口約23,000人）が誕生しました。なお、上九一色村の南部地域も甲府地域との合併協議を経て分村し、富士河口湖町と合併することが検討されています。

◎ 桂川流域下水道の一部供用開始

桂川流域下水道は、流域の水質保全と生活環境改善を図るため、山梨県が平成5年度から3市2町（富士吉田市、都留市、大月市、西桂町、上野原町）の区域を対象に事業を進めてきました。このたび大月市梁川町に建設を進めていた、下水道処理施設「桂川清流センター」が完成し、平成16年4月1日から桂川流域下水道の一部が供用開始されます。

☆ おしらせ&お願い ☆

■平成16年度 桂川・相模川流域協議会

定期総会は、平成16年5月22日（土）

午後、ソレイユさがみにて開催予定です。

■会報誌についてのご意見・ご感想、また流域の話題がありましたら、下記事務局までお寄せください。

（FAX可）



あなたも入会しませんか！

★市民年会費：個人会員

一口1,000円（一口以上）

なお、団体として加入される会員の方は、二口（2,000円）以上でお願いします。

★事業者年会費：一口10,000円（一口以上）

<振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259
名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店
普通口座 6825559
名 義 桂川・相模川流域協議会
代表幹事 桑垣美和子



編集後記

◆編集担当になり早2年が経とうとしています。最近では河川改修や開発時、自然に配慮する方向に向いており、世の中が効率や開発重視から環境重視へとカーブを切りつつある大事な時期となりました。「川の命は生命の源」…たくさんの方の協議会での活動及び支援を願い、輪が広がっていくことを祈っています。

(S)

◆今回も掲載記事がとても多く、編集するのに一苦勞。でもうれしい悲鳴です。

(M)